

オアシス新聞

第四十二号
吹く風に季節感じて

日本人は季節の変化を感じ取ることに、非常に優れています。春夏秋冬の四季だけではなく、四季をそれぞれ6つに分けた二十四節気というものがあり、二十四節気をさらに細分化した七十二候というものもあります。七十二候によれば、大体5日ごとに季節の変化を感じるようになります。近年はエアコンの普及や都会暮らしなどにより、季節の変化に気づく能力が乏しくなってしまう、二十四節気だって祝日になる春分や秋分と、日照の長さについてしきりにテレビで話題になる夏至や冬至くらいしか、気に留めることもなくなってきました。時代の変化とはいえ、なんだかとてもさみしいことに思われます。

季節は暖かい寒いといった体感や、暦で日にちが決まっている二十四節気のほかに、風から感じ取ることもできます。その年初めて吹いた強い南風『春一番』を心待ちにしたり、その年初めて吹く強い北風『木枯らし一号』によって、近づくと年末に思いをはせたりします。ちなみに春一番は立春から春分の間に吹く風速8m毎秒の南風、木枯らしは10月半ばから11月末までに風速8m毎秒で北寄りの風が吹かなければカウントされません。この条件に満たないと『今年は観測なし』となる場合もあり、そんなことがニュースで取り上げられるのですから、実に平和で喜ばしいですね。

風の呼び名はあまり知られていないものも含めて実にたくさんあり、新緑の頃に吹く心地よい『薫風(くんぷう)』や、源氏物語の巻名にも使われている、草をかき分けるような暴風(台風)『野分(のわか)』など、実に風流な呼び名があります。その他にも地域に根差した季節の風として、六甲おろしや『かかあ天下と空っ風』でおなじみの赤城おろしなど、冬山から吹き降ろす冷たい風の呼び名は、今でも比較的良好に聞かれると思います。

自然界の変化で季節を感じる事が難しい時代かもしれませんが、風が冷たくなってきたとか、さわやかな風だとか、吹く風で少しでも季節の変化を感じられるように、感覚を研ぎ澄ませていきたいものですね。



木製のサッシで
ネジ式の鍵がついた
窓の頃は
隙間風が入ってきて
家の中でも
寒かったけど
心は温かったものです。

本当の風では
ないけれど
「都会風を吹かす」

なんと言葉も
ありませんね。
最近(は)あまり
聞かれないけど...

いつの間にか
スパッと切れたような
傷ができた時は
つむじ風に乗って
かまいたちが
現れたのかも？